

須古校区地域づくり協議会設 立準備に係る事前打合せ (全3回)

第1回 2019年9月25日 (水)

第2回 2019年10月24日 (木)

第3回 2019年11月19日 (火)

- 事前打合せ目的： 協議会での検討に向け、話し合いの骨格をつくる
- 事前打合せゴール： 須古の未来像と協議会の方向性案ができた

第1回

- モデル事業概要説明と進め方を確認した
- 協議会設立までの全体スケジュールを確認した

第2回

- 協議会と目指す将来像について協議を実施した
- 準備会開催に向けた検討事項等の協議を実施した

第3回

- 準備委員会開催に向けた協議、確認を行った
- 各地区で現在起こっている事象を共有した



須古の人は謙虚だけど、
「あの人がそう言うならば！」という気質も持っているよ

防災や災害は共通課題だ！



- ・今回のことはいいきっかけになる
- ・婦人会活動がもっとできる場が欲しい

せっぱつまらないとなかなか動かない

- ・その分、役員が走り回っている

なり手、が減っている

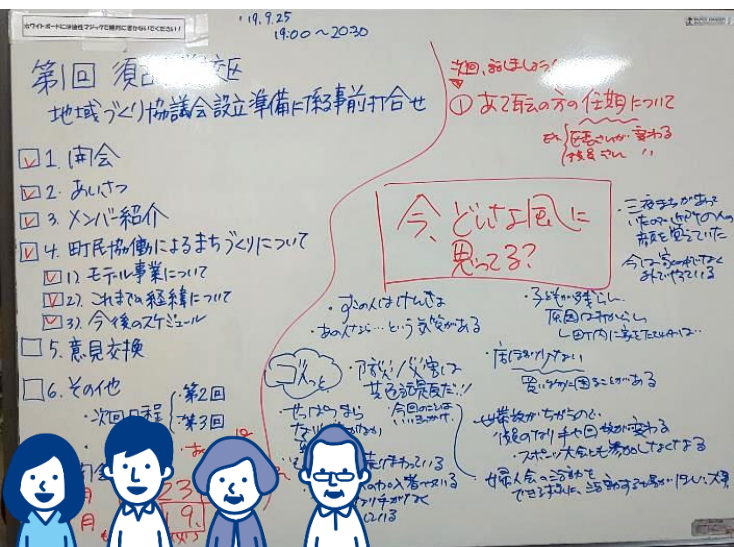
- ・役員のみなり手がなく●●会が消滅している

知り合う機会や場が変わってきた

- ・三夜待ちの会場が自宅から居酒屋に変わった
- ・かつては三夜待ちで近所の人顔を覚えたりしていた

その他にも…

- ・子ども達が須古に残らない。原因は分からない
- ・店舗が少なく買い物に困ることがある
- ・地区ごとに世帯数が違う。役員のみなり手や回って来る回数も変わってくる
- ・世帯が少なくなると地域のスポーツ大会にも参加しなくなってきた



どんな協議会だったらいいな？



自分達だけでは決められない問題を、解決・実行まで持つていけるところ

人づくり、役づくりでお世話がきる

地域情報が一番わかっているところ

須古に何かがあった時に投げかけられるところ。そして振り分けもできる須古の窓口

- 各団体の課題を出し合い、情報提供と解決をする場所
- 団体間のゆるやかなネットワークがあるが、苦情受けたまわり場所ではない
- 地域行事を全体で取り組む
- 自然災害が大きくなっているので、防災のきちんとした組織が必要だと感じる
- 避難所に高齢者が行きづらい、避難しづらい。そのため小さい単位で安全を考えることがコミュニティ地域の単位となるのでは？
- 協議会で仕事が増えると役員のなり手がますますいなくなる
- 人が減るとお金の負担は増えていく
- なぜ地域の中で地域の取り組みをしないといけない？



防災、災害時にお互いの地区で助け合える須古

文化を引き継いでいく須古

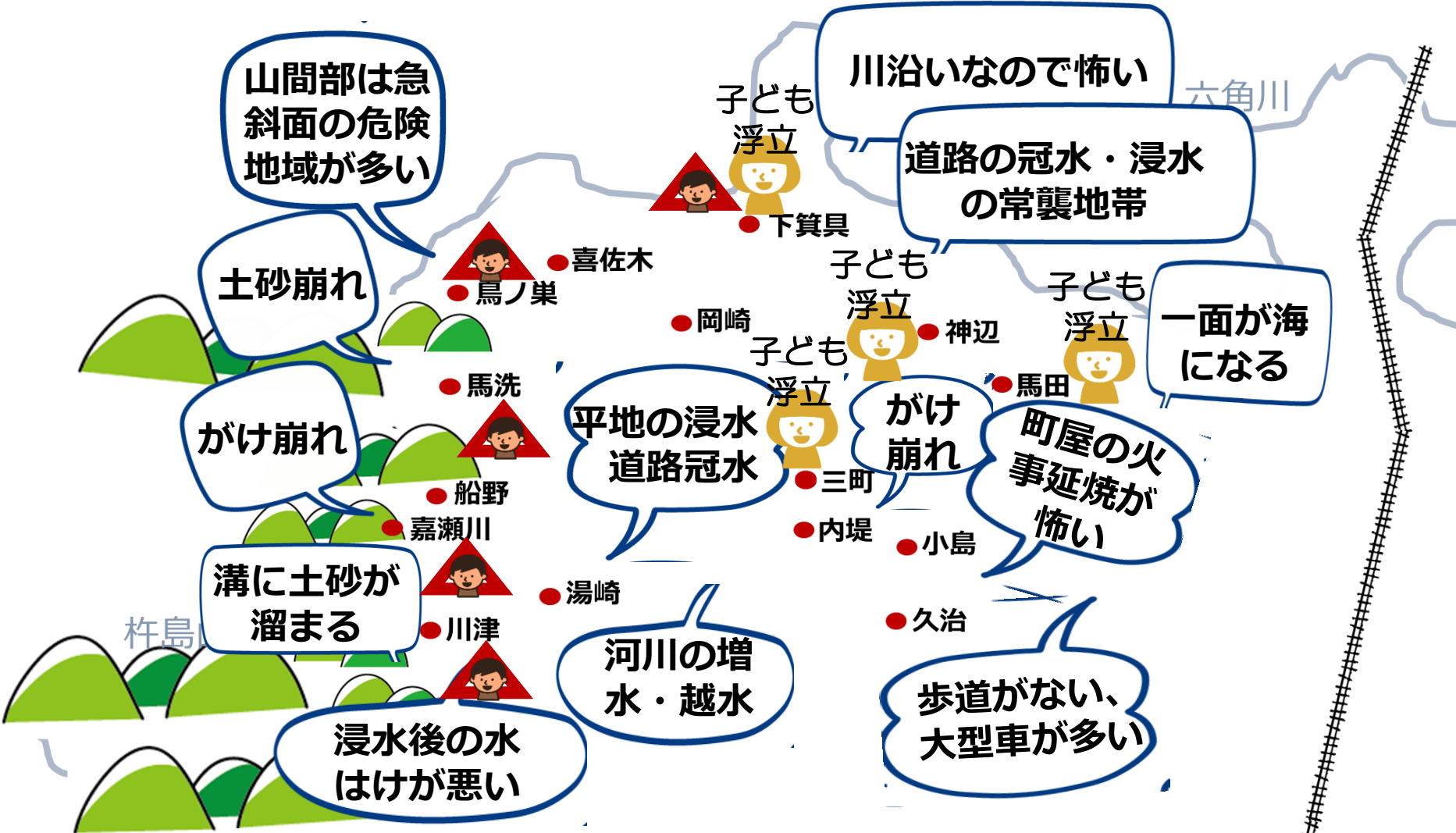
子どもを取り組まうことが充分にできる須古

「農」を伝え稼ぐ須古

須古の未来がこんなだったらいいな！

- 女性もみんなも地域に出て活躍できる環境がある
- 地区（部落）でやっていたことを全体で保護している
- 事故がない
- 子ども達が少なくなっていくが、この子ども達を守れる地域になる
- 地域間、団体間の情報共有ができる仕組みがある
- 須古の歴史が見えたり、須古寿司が食べれるところ
- 高齢者の移動手段があるところ
- 誇れる教育システムを持った小学校がある
- 歴史ある資源がたくさんあるので、観光資源にして稼げる地域になる
- 若い人が地域を出ないような力のある須古にする
- 縫ノ池米というブランド米ができ、6次化を進めながら古民家を使って集客する





- 地区全域で同時多発的な災害が起こりうる
- 次への繋ぎができにくい状態になっている
- 人の減少が集まりや継承に影響をしている



喜佐木

- 全体的に低平地な場所なので道路等の浸水が多発する。今年は床下浸水が多く発生した
- 六角川沿いなので怖い

下笠旦

- 低平地のため浸水が多く、道路冠水の常襲地帯でもある
- 須古川の下流は大雨で冠水し、六角川の崩壊も起こる
- 地震や災害には強い

- 道路が30~40センチ冠水して道路と川、田畑の境界がわからなくなる
- 床下浸水をする
- 一面が海のようになり2日間くらいは水か引かない
- 大型車両の往来が多い

鳥ノ巣

- 山間部なので急傾斜や危険区域が多くある

岡崎

- 浸水はほぼしないが、須古川に水が集まり増水をする
- 町屋の火事や延焼することが怖い
- 大詫間の交差点では地元の人が一歩停止をしない

- 須古川からの溢水がある
- 比較的、高い地域のため水没が少ない
- 多田地区との排水に季節的な制約がある
- 通学道路に歩道がなく、通学に問題がある

馬洗

- 土砂崩れが起こる
- 家の裏が山なのでがけ崩れの恐れがある

湯崎

- 土砂崩れが起こる

- 隆（高）城の南側ががけ崩れ地区になっている
- 公民館行事で炊き出しをしているので、非常時の訓練にもなっている
- 消防団になる世代の人がいない

久治

船野

- 土砂崩れが起こる
- 山が多く山からの水が流れるなど自然災害が多い

嘉瀬川

- 大雨の時は広域農道が堤防となるので、水はけが悪くなる
- 川津の山側の溝に土砂が溜まり、掃除が大変になっている

川津

自然・災害



喜佐木

- 子どものいる世帯は37戸中4戸
- 中学生がいない
- 子ども浮立や子どもの日のお祝いなど、活動を活発に行っている

神辺

- 小学生の数が低下している
- 次世代の流失があっている
- PTAによる子どもへの活動が充実している

馬田

鳥ノ巢

- 子どものいる世帯は27戸中3戸

岡崎

三町

小島

馬洗

- 90戸あるが子どもの数が少ない

湯崎

内場

- 同居世帯も減り20年後には戸数が半減するのではないかと危惧している
- 小・中学生が激減し子どもクラブの活動が充分にできない状態

久治

船野

嘉瀬川

- 子どものいる世帯は36戸中7戸
- 子ども達があいさつをよくしてくれる

川津

- 通学時には子ども達が元気にあいさつをしてくれている
- 子どもが少なくなっているので子ども同士で遊んでいる姿を見かけない

子ども



喜佐木

下箕具

- お地蔵さま（田五郎さん）
- 土手沿いに川の神様の祠がある

神辺

- 大人から子供まで浮立の伝承ができており指導者もいる
- 神待ちなどの行事がある
- 部落行事への参加を行っている

馬田

- 浮立の稽古を大人も子どももやる
- 妻山神社
- 腰から下にご利益のある神様がいる

鳥ノ巢

- 天満宮がある
- 浮立の伝承ができていない
- 老人会も壊れた

岡崎

- 浮立を行っている
- お地蔵さん、お観音さんの定期清掃や前かけの奉納、お茶講を行っている
- 明治時代の家屋や白壁が残っている
- 豆祇園ができている

小島

- 小島城あとの保全が必要
- 家々の歴史をもっと知ることが必要

馬洗

- 子ども浮立に浮立保存会が協力している

湯崎

- 若い世代の減少で浮立の伝承や実施が困難になってきている
- 隆（高）城があるので工事には発掘調査が必要な場所
- 老人会が城堀の掃除をしている

久治

- すわ神社
- お祭り

船野

嘉瀬川

- 水堂さんがある
- 地域行事への活発な参加があっている

川津

- 縫の池で釣り大会、夏祭り、秋の茶会を開催
- 区全体で除草作業を実施
- 浮立の継承が難しくなり今は妻山・杵島神社の人だけで練習をしている

文化・歴史





防災活動や災害の時には、お互いの地区を助け合っている

2××年の 須古の様子

須古の魅力が「力」となって、人が寄る須古になっている



子どもを取り巻くこと（見守り・教育・伝承）が充実していて、子どもの育ちを見守る須古になっている



女性も子どもも高齢者も、一人ひとりが活躍している須古になっている

！条件！

- 人口減少を前提としてこれからの地域のあり方を探る
- 地域で解決できることを考える
- 地域の全員が関わっていけるような仕組みを探していく



須古の暮らしの窓口のような 協議会

- ① ゆるやかなネットワークでつながり、お互いに協力しあえる関係性がある協議会
- ② 地域情報や生活情報を一番分かっている協議会
- ③ 地域や団体の課題を出し合い、解決していける協議会
- ④ 須古に何かがあった時に、それを投げかけができる協議会
- ⑤ 災害など大きなインシデントに細やかな対応がとれる協議会